



鉄道・運輸機構

キャピタル・アイ Awards “BEST DEALS OF 2019” 財投機関債等部門を受賞しました

2019年5月に発行した鉄道建設・運輸施設整備支援機構債券（CBI認証付きサステナビリティボンド）が、株式会社キャピタル・アイの「キャピタル・アイ Awards “BEST DEALS OF 2019”」財投機関債等部門を受賞しました。財投機関債等部門での受賞は2017年のグリーンボンド（GB）発行による受賞に次ぎ2回目となります。

当機構は引き続き、交通ネットワークの整備を通じSDGsへ貢献するとともに、サステナビリティファイナンス（①環境改善効果があること（グリーン性）②社会的課題の解決に資するものであること（ソーシャル性）の双方を有するもの）による資金調達を通じたESG債市場の発展・拡大に貢献してまいります。

1. 実績

- 第125回 鉄道建設・運輸施設整備支援機構債券 100億円（5年）
- 第126回 鉄道建設・運輸施設整備支援機構債券 100億円（10年）
- 第127回 鉄道建設・運輸施設整備支援機構債券 130億円（15年）
- 第128回 鉄道建設・運輸施設整備支援機構債券 100億円（30年）

2. キャピタル・アイ講評

アジア初のCBIプログラム認証付きサステナビリティボンド。総額430億円に対して4倍超の最終需要を創出し、42件の投資表明がなされた。ESG投資に関心を示す投資家の新たな買いを取り込み、財投機関債の購入層や日本のESG債市場の拡大に貢献した。

（参考）

鉄道・運輸機構では、四半期ごとにCBI認証付きサステナビリティボンドを発行しており、2020年3月末時点で92件の投資表明をいただいております。2020年度も四半期ごとの発行で年間1,056億円（計画額）の発行を行う予定です。

本プレスリリースは、鉄道・運輸機構による債券の発行予定を一般に公表することのみを目的としたものであり、鉄道・運輸機構が発行するいかなる証券の投資勧誘を目的としたものではありません。

2020年4月1日

報道関係者各位

株式会社キャピタル・アイ

◎BEST DEALS OF 2019 を選出：SB は武田薬品、IPO はフリー

キャピタルアイ・ニュースは1日、キャピタル・アイ Awards “BEST DEALS OF 2019” を発表した。引受証券会社と機関投資家へのアンケートをもとに編集部審査を加え、2019年度の債券・株式発行市場における優良案件・発行体を選出した。

普通社債部門では、1本で5000億円のハイブリッド債を供給した武田薬品工業がベストディールを、三菱地所は初の50年債、アイフルは初の公募ハイールド債で特別賞を獲得した。鉄道建設・運輸施設整備支援機構はアジアで初めてのCBI認証付きサステナビリティボンドを発行してESG債市場の拡大を牽引。地方債では基軸の10年債において3度の転換点で主役を務めた愛知県が高い評価を得た。アジアの発行体で過去最大のサムライ債を供給したインドネシア共和国、円建てのデビューを飾ったメットライフが非居住者部門で受賞。パナソニックは実質初回となるドル建てで外債部門を制した。

株式新規公開部門ではクラウド会計ソフトのフリーが受賞。当年度のIPOのトレンドとなったSaaS関連のなかで、成長に向けた事業計画が海外投資家に支持された。SOSiLA物流リート投資法人の初値は2年ぶりに公募価格を上回り、リートIPOの連敗ストッパーの役割を果たした。既公開株式部門は、当年度最大の案件だったリクルートホールディングスが2016年に続く2度目の栄冠。ロームのユーロ円CBは、ネームの希少性やエクイティストーリーに評価が集まった。

以下が授賞リスト(〈〉内は主幹事/株式のグローバル案件はグローバル・コーディネーター、日付は条件決定日/決議日)。

普通社債部門

BEST DEAL OF 2019

劣後第1回 武田薬品工業債 5月31日 60年(NC5) 5000億円
〈三菱UFJモルガン・スタンレー/SMBC日興/みずほ〉

1トランシェで5000億円という発行額は日本のホールセール債で過去最大。これで、シャイアー買収資金の恒久化を終了した。買収後の決算を見極めてもらうため、起債時期を4月から5月に延期するなど、柔軟な運営で大型案件を成功させ、ハイブリッド市場の拡大に寄与した。

特別賞

第 128 回 三菱地所債 4 月 12 日 50 年 150 億円

〈野村〉

国債でも存在しない 50 年債を日本で初めて供給し、社債市場の歴史に名を残した。低金利の環境下で金利リスクに見合うリターンを投資家に提供する一方、発行体にとっては金利の固定化、調達手法の多様化となる点で意義があり、当年度は 4 件の 50 年債が続いた。

特別賞

第 61 回 アイフル債 5 月 31 日 1 年 6 ヶ月 150 億円

〈野村〉

日本の社債市場で初めての公募ハイールド債。ダブル B フラット(JCR)の格付けを付与されている。クレジットリスクを負う代わりに、短い年限で高い利回り(0.99%)を得られる商品であり、投資対象の拡大に寄与した。発行体にとって 12 年ぶりの公募債市場への復帰で、調達手段の多様化という意義もあった。

BEST ISSUER OF 2019

三井不動産

不動産セクターとしては年度最多の 3 回・8 本の起債で総額 2000 億円を発行した。基幹年限に加え、初のグリーンボンドや 50 年債も供給し、多くの投資機会を提供した。低コストによる資金調達に過度にこだわらず、投資家の声やマーケット環境を勘案して起債運営を行うなど、市場と対話する姿勢が評価されている。

財投機関債等部門

BEST DEALS OF 2019

第 125 回 鉄道建設・運輸施設整備支援機構債	5 月 23 日	5 年	100 億円
第 126 回 鉄道建設・運輸施設整備支援機構債	5 月 23 日	10 年	100 億円
第 127 回 鉄道建設・運輸施設整備支援機構債	5 月 23 日	15 年	130 億円
第 128 回 鉄道建設・運輸施設整備支援機構債	5 月 23 日	30 年	100 億円

〈みずほ/野村/SMBC日興〉

アジア初の CBI プログラム認証付きサステナビリティボンド。総額 430 億円に対して 4 倍超の最終需要を創出し、42 件の投資表明がなされた。ESG 投資に関心を示す投資家の新たな買いを取り込み、財投機関債の購入層や日本の ESG 債市場の拡大に貢献した。

BEST ISSUER OF 2019

該当なし

地方債等部門

BEST DEALS OF 2019

第 792 回 東京都債	6 月 14 日	10 年	200 億円
〈幹事:みずほ銀行/野村/三菱UFJモルガン・スタンレー/SMBC日興/ゴールドマン・サックス〉			
令和元年度第 4 回 愛知県債	6 月 14 日	10 年	150 億円
〈幹事:三菱UFJ銀行/みずほ〉			

同じ月の案件は同じ方式で条件決定するという 10 年物地方債の慣例を破り、横並び体質に風穴を開けた。金利が急低下したにも関わらず、月初の案件がスプレッドプライシングを踏襲して低クーポンとなってしまったところ、中旬の東京都と愛知県が下限利率を設定してそれがヒットした。絶対値での起点を作ったことで、翌月以降の需給立て直しと安定消化に貢献した。

BEST ISSUER OF 2019

愛知県

地方債の基幹年限である 10 年債で当年度に起こった 4 回の転換点のうち、3 回を主導した。交渉方式の 6 月債では、スプレッドプライシングだった月初の手法を変え、下限利率を設定して適用。主幹事方式だった 9 月債では下限利率をタイト化させた。同方式の 2 月債ではスプレッドを 1bp 縮小させたうえ、250 億円に対して約 1600 億円の需要を集めた。

非居住者円債部門

BEST DEALS OF 2019

第 8 回 インドネシア共和国債	5 月 16 日	3 年	757 億円
第 9 回 インドネシア共和国債	5 月 16 日	5 年	802 億円
第 10 回 インドネシア共和国債	5 月 16 日	7 年	45 億円
第 11 回 インドネシア共和国債	5 月 16 日	10 年	76 億円
第 12 回 インドネシア共和国債	5 月 16 日	15 年	40 億円
第 13 回 インドネシア共和国債	5 月 16 日	20 年	50 億円
〈大和/みずほ/野村/SMBC日興〉			

サムライ債市場でアジアの発行体として過去最大の案件。3~20年の6本立てでオーダーを1770億円まで積み上げた。米中貿易摩擦の激化で世界的にボラティリティが高まっていたものの、短中期ゾーンを軸に期初買いを捉え、レラティブバリューも評価された。

特別賞

メットライフ グローバル債	5月16日	7年	252億円
メットライフ グローバル債	5月16日	10年	649億円
メットライフ グローバル債	5月16日	12年	107億円
メットライフ グローバル債	5月16日	15年	265億円
メットライフ グローバル債	5月16日	20年	244億円

〈SMBC日興/みずほ/モルガン・スタンレー〉

円建てでのデビュー債。サムライ債に比べて投資家層が薄いグローバル円債市場にあって、長期・超長期ゾーンで総額 1500 億円超のディールに仕上げた。日本での知名度と周辺銘柄対比の水準、投資家の要望に応えた年限設定が初回債としては大型のサイズに寄与した。

BEST ISSUER OF 2019

アフラック

当年度はグローバル円債で2回登場。12月が10～20年、3月が5.5～15年とし、総額950億円を起債した。新型コロナウイルスの感染拡大で世界中のマーケットが混乱するなか、3月のディールでは日本での営業基盤を背景とした知名度とフリークエントイシューアという強みが生きた。投資家の関心を集めやすい中期ゾーンを加えたこともアフラックダックの人気化につながった。

証券化部門

BEST DEAL OF 2019

該当なし

BEST ISSUER OF 2019

住宅金融支援機構

月次とT種を合わせて15本・約2兆円のRMBSを供給し、証券化市場の発展に貢献している。4月債で年度最大の2277億円の大型起債を成功させてスタートし、8月債では初めて下限利率を設定して適用。超低金利下でも継続発行が可能であることを示した。市場環境の変化に応じた運営が高い評価を得ている。

外債部門

BEST DEALS OF 2019

パナソニック グローバル債	7月10日	3年	10億ドル
パナソニック グローバル債	7月10日	5年	10億ドル
パナソニック グローバル債	7月10日	10年	5億ドル

〈ゴールドマン・サックス/モルガン・スタンレー/バンク・オブ・アメリカ〉

1992年以来のドル債で、27年ぶりゆえに実質初回債だった。民生機器や車載・産業製品、住宅設備など幅広い事業ポートフォリオを持つ企業であり、本邦企業では珍しいコングロマリット銘柄であることをアジア・欧州・米国の投資家に訴え、総額25億ドルの発行額に対して100億ドルを優に上回るオーダーを獲得した。

特別賞

地方公共団体金融機構 ユーロ債 (GB) 2月4日 7年 5億ユーロ
〈JPモルガン/みずほ/パークレイズ/バンク・オブ・アメリカ〉

発行体にとって初のグリーンボンドかつ約5年5ヵ月ぶりのユーロ建て債。地方自治体の下水道事業向け融資というテーマ性が本場・欧州のESG投資家の関心を集め、40億ユーロ超の買いを呼び込んだ。希少性の高い本邦公的(SSA)ネームの債券であることもディールに追い風となり、想定フェアバリューと同スプレッドに落ち着いた。

BEST ISSUER OF 2019

該当なし

新規公開株式 公募・売出部門

BEST DEAL OF 2019

フリー 12月17日上場 公募・売出：1747万6300株 349億5260万円
〈モルガン・スタンレー/大和〉

国内SaaS企業初のグローバルIPO。SaaS特有のKPIを開示したことなどが支持され、IPOでは異例の7割を海外に配分した。相場が下落するなかでも、公開価格の2000円に対して、株価は3000円以上を付けている。

既公開株式 公募・売出部門

BEST DEAL OF 2019

リクルートホールディングス 8月28日 売出：1億1674万5900株 3594億6062万6100円
〈モルガン・スタンレー/野村/バンク・オブ・アメリカ/ゴールドマン・サックス/みずほ/SMBC日興〉

株式の持ち合い解消を目的とした当年度最大のPO。海外HRテック事業の展開が成長を牽引すると目され、特に海外から前回を上回る需要を集めた。取得期間を受渡日の翌日からと定めた最大800億円の自社株買いによる既存投資家への配慮も好評だった。

不動産投資信託証券部門

BEST DEAL OF 2019

SOSiLA物流リート投資法人 12月10日上場 公募：48万7000口 501億6100万円
〈SMBC日興/大和/みずほ〉

J-REITのIPOの連敗ストッパーを務めた。スポンサーネームはもちろん、首都圏の好立地で築浅の物件を揃えながらも、分配金利回りが4.6%というリーズナブルな価格設定で投資家の心を掴んだ。物流系リートが見直される追い風にも乗った。

BEST ISSUER OF 2019

該当なし

転換社債型新株予約権付社債部門

BEST DEALS OF 2019

ローム ユーロ円 CB

11月19日

5年

400億円

〈ゴールドマン・サックス/野村〉

資本効率の改善を目的としたフルリキャップ CB。ダブル A 格ネームの希少性と年度最大の発行規模から、満場一致で選出された。発行体の信用力を活かし、105 円発行で 54.99%のアップ率という最高水準の発行条件を実現。500 億円の自社株買いを円滑に行うため、ヘッジ売りを志向する投資家に優先的に配分するなど案件運営の工夫が光った。

■キャピタル・アイ Awards とは:

当年度の資本市場でなされたファイナンスのなかで最も優れた案件は何か、発行体は誰か、普通社債、財投機関債、地方債、非居住者円債、外債(日本企業による海外発行債)、証券化、新規公開株式、既公開株式、不動産投資信託証券(J-REIT)、転換社債型新株予約権付社債(CB)の各部門にわたって引受証券会社と機関投資家へアンケートを実施。回答をもとに、市場に円滑に受け入れられたか、市場にとって意義があったか、市場の発展や活性化に資するかなどの観点で編集部が選出し、表彰する。

◆株式会社キャピタル・アイについて

所在地:東京都千代田区西神田 3-1-6 日本弘道会ビル

設立:2006年7月

資本金:8千万円

主な事業の内容:金融市場に関するオンライン情報サービス(ニュース及びデータベース等)

金融専門誌や関連書籍の製作・発行

【債券・株式資本市場のプロフェッショナル向けリアルタイム情報サービス「キャピタルアイ・ニュース」を提供しています。債券分野では普通社債、財投機関債、政府保証債など債券発行市場を幅広くカバーし、一般債セカンダリー市場や CDS 市場、CP 市場などのニュースも配信しています。株式分野では株式、不動産投資信託証券、転換社債型新株予約権付社債のほか、M&A 関連や貸株の市場動向などを報道しています。】

ホームページ <http://c-eye.ne.jp>(契約者サイト) / <http://c-eye.co.jp>(公開サイト)

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社キャピタル・アイ

編集部:菊地健之 03-6826-4721